
冷たい雨から暖かいぬくもりへ

鈴蘭

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

冷たい雨から暖かいぬくもりへ

【Nコード】

N8004Y

【作者名】

鈴蘭

【あらすじ】

銀行強盗により、両親が殺されたことによって、家でも学校でもいじめられるようになった蘭。

そのことが原因で、家出をした蘭。そこで、出会ったある少年のことを思うようになってしまう。

そして、少年と一緒に住むことになった蘭。これから、同い年の2人の恋が始まる――。

やみそうにない天気と心

「はっはっ！」

私はどこかに向かつて走っていた。

どこだろう…ここ。

それよりも、私はこの生活から抜け出したかった。

米花中学一年、毛利蘭。

ここから、物語が始まる――。

冷たい雨から暖かいぬくもりへ

「はっはっ！」

私はどこかに向かつて走っていた。

どこだろう…ここ。

それよりも、私はこの生活から抜け出したかった。

米花中学一年、毛利蘭。

私には、もう、楽にできるところがない。

学校でも家でも、いじめにあっている。

その原因は、私の本当の両親である。

私の両親は、毛利小五郎と毛利英理。2人とも、私を愛してくれた。
でも、ある日、私たち家族は米花銀行にでかけ、三人で仲良く戻ってくることはなかった。

銀行強盗に襲われたのだ。

当時刑事だったお父さんは銀行強盗を捕まえようと取り押さえたが、逆に殺されてしまった。

そして、銀行の客も全員殺して言った。

男女、子供問わずに殺していくのだ。

私は不幸中の幸い、トイレにいたのだ。私は銃声がして怖くてトイレから離れることができなかった。

そして、いざ、勇気を振り絞って両親のいるところに行ってみると、客が全員血を流して倒れているのだ。

悲鳴を上げる私。それと同時に警官が突入し、私をひつとらえ、父のいところに預けられた。

しかし、私には……つらくて仕方がなかった。

たくさんのお金を取られ、苦しくて仕方がない。

そして、学校でも、親のことでいろいろと言われ、無視、嫌がらせが多いのである。

だからこうして私は逃げ出した。

もう、誰にも言われないようにしたかった。
自由がほしかった。

もういやだ。

私はどうにでもなれと、体の動くままに接することにした。
気付いたら、杯戸公園に来ていた。

そして、冷たい、濡れる雨が降ってきた。
しばらくやみそうにない。

もちろん、この私の 汚れた心 哀しい心の雨もやみそうになかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8004y/>

冷たい雨から暖かいぬくもりへ

2011年11月23日20時50分発行